

Organo de Hokkajdo Esperanto-Ligo

LEONTODO

N-ro 47

6 - 1972

ENHAVO

Raporto de la 5a Komitata Kunsido.....	2
La dua inforsa de la 36a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo.....	4
産権規約改正案(スウェーデン議案1).....	6
租税特権の譲渡の税金(牙蘭議案).....	7
Ĉu realiĝos la plano havi E-Domon en Sapporo?.....	8
各地のうごき	
Elementa Kurso en Sapporo.....	9
公署税務課員田への招待受け.....	9
事務局より.....	12
TEEAの台審に参加して / 黒川恵美子.....	13
エスペランティストのみなさんに / 永伊良一.....	14
ロンドン大会に参加して / 塩江精一.....	15
El mia vojaĝo tra Eŭropo / 本村洋子.....	20
INTER NI.....	22
Esperanto k E-istoj en ĵurnaloj k gazetoj.....	23
Lernantas...? Sciintus...? / 星田淳.....	24
EL NIA LETERKESTO.....	25
Pli altigu E-movadon en Hokkajdo.....	26
POSTSKRIBO.....	28
Kio estas duonkonduktanto? / Iĉikaŭa T./.....	29
Rakonto de Dio Strigo pri si mem (2) /trad. A.Hoŝida..	30
Rakonto de Okikirmuido "Ĉi Sabro Ruĝas, Ruĝas" (Pon Okikirmuj jajejukur "Tanota hure hure") / trad. A.Hoŝida..	34
Japana-Esperanta Vortaro por mi (2) /Hamada K.	37

Reporto de la 5a Komitato Kunsido

5月14日、8-10 高橋宛にて。出席者；高橋、星田、沢谷

今期最後の連盟委員会なので、委員会として、連盟規約改正案を7月の大会に提案するべく検討しました。(大会提案議題参照)

1. 大会、連盟の esperanta nomo について

昨年の大会で出された問題については、Leontodo, p. 1044 で HES からの komento と 8-10 Hosida の見解が出されています。一番大きな点は、固有名詞のエスペラント化をどこまで認めるかということです。委員の間にもいろいろ意見があります。Zamenhof の精神をおもひ進めると、連盟の名は Hokkajda Esperanto — Ligo ということになります。北海道を Hokkaido とせず、Hokkajdo とする点までは問題はないのです。しかし、エスペラント化したのなら、その単語は、当然エスペラントの文法に従って、語尾 変化するわけですが……。現実的問題として、すでに印刷され、まだ 500 枚ほど残っている Leontodo の表紙には、Hokkajdo Esperanto—Ligo となつていますので、今更ぐに Hokkajda Esperanto—Ligo に 統一することはできません。したがって、当面は両方とも認めざるを得ないでしょう。大会の名称は、この点を考慮し、混乱をさけるために、La 36a Kongreso de Esperantistoj en Hokkajdo という形のエスペラント名を採用することを提案します。いづれにしても、固有名詞のエスペラント化については、まさにより多くの Esperantistoj が実際に使つていくうちに、定着するものでしょう。

2 規約第 2 条から第 4 条までは、現行の規約と内容は変つていません。ただし、第 4 条の中味については、実践の上で、より豊かなものにしていかなくては……。

3 委員及び委員会について

委員会は、各ロンドの連絡機関であると同時に、全連のエスペラント運動に対して責任をもつ執行機関的性格をもっていることを明文化し、ました。委員会で議論するのみならず、可能なかぎり実務も行なつていくことによつて、従来、事務局にすべての仕事が集中しがちであつた点をもつためることができるのではないのでしょうか。

連盟の最大の事業である機関誌(紙)の発行についても、その発行体制をより安定なものにすることができるのではないのでしょうか。

委員の選出に関しては、まず、各ロンドが、そのロンドを代表する連盟委員を各自選び、北海道大会で承認を得るとい形式になるでしょう。また、どのロンドにも所属していない個人会員の中からも、委員としての役割をはたし得る人は、大会において委員として選出されます。

4 財政については、第4回連盟委員会の報告でのべたとおりです。(1971) (Leontodo n-ro46 参照)

また、s-ro 市川の提案 (Leontodq n-ro44) にしたがって、会計監事の項を新しくつけ加えました。

各ロンドの例会などでも、改正案について討論を深めてください。

(Sawaya Y.)

~~*****~~
Karj gesamideanoj!

1972 年は UNESCO の国際図書年です。

エスペラントの本をたくさん読みましょう。

エスペラント文化を高めるために!

エスペラントの本をたくさん買いましょう。

エスペラントの出版文化を支持するために!

monujo の許すかぎり!!

道内唯一のエスペラント書専門店 緑屋堂 (Librejo VERDA STELO) は今年もまた、大会会場に即売店を出し、みなさまのご要望にこたえます。

では大会で!

via serioza

Malseri Ozulo.



「第36回北海道エスペラント大会」

La dua informilo de Hokkajda Kongreso

とき： 1972年7月8日(土)，9日(日)

ところ： 中山峠健民センター・トレーニングハウス

044 - 03 虹田郡喜茂別町字川上

電話 喜茂別9911 ~ 9913 内線 5003

ことしの北海道エスペラント大会の日程を、次のとおり予定しましたので是非ご参加くださるようご案内いたします。

第1日(7月8日)

- 15,00 ~ 受付開始
- 15,30 ~ 楽しい楽しい！
 - (1) スライド上映
 - (2) 合唱
 - (3) お話し
- 17,30 ~ こんしん会
- 19,30 ~ キャンプファイヤー
- 22,30 ~ 就寝

第2日(7月9日)

- 7,30 ~ 朝食(希望者は6時から朝食まで山菜取りに行きます。)
- 9,00 ~ 会議
- 11,30 ~ 記念さつえい
- 12,00 ~ 昼食
- 13,00 ~ エスペラントで楽しく！
 - (1) 20の扉
 - (2) 各地方会の出しもの
- 15,00 解散

費用

一般	(参加費)	2,200円	(申込金)	700円
学生		2,000		500
子ども		1,300		300

不在参加

500円

500円

注) ◎申込金は参加費に含みます。

◎7月9日のみ参加の方は、申込金と同じ額です。

◎参加費には、宿泊費、9日の昼食代、記念写真代などを含みます。また、9日のみ参加費には、9日の昼食代、記念写真代などを含みます。

申込み

6月下旬までに申込金を添えて下記へお申込みください。

060 札幌市中央区南2条西4丁目 中央タイピスト学院内
札幌エスペラント会 (TEL 251-4750)

振替 小樽 8310

または 北海道エスペラント連盟

振替 小樽 17075

◎お願い

・大会会場及び宿舎は借り切りますので、是非多数の方々のご参加をお願いします。

あなたのお友だち、ご家族にもぜひ!

・朗読コンクールに参加しよう! (komencantoj 対象)

「La Teksto Unua」から、好きな1課を選んで個人あるいはグループで朗読してください。もちろん内容をおもしろく、適当にreadしてもよい。各ロンドの初級講習を終えたばかりの人、いま受けている人は必ず出よう。賞品多数あり! 今から練習を!!

・中山峠は7月といっても朝夕は冷え込みますので、セーターなどを用意ください。

第36回北海道エスペラント大会準備委員会

Vin Atendas La Kongreso!

大会議案 1

北海道エスペラント連盟規約改正案

(連盟委員会提案)

第1条(名称) この連盟は、北海道エスペラント連盟(Hokkaido Esperanto — Ligo ~~en~~ Hokkajda Esperanto — Ligo)という。

第2条(組織) この連盟は、北海道在住のエスペランティストの中の希望者(個人会員)および地方会各団体(団体会員)で組織する。

第3条(目的) この連盟は、北海道におけるエスペラントの宣伝と実用をはかり、民主的文化の向上に寄与し、世界的な交流をはかることを目的とする。

第4条(事業) この連盟は、目的達成のため、次の事業を行なう。

- A 機関誌、印刷物の発行
- B 講習会、展示会、合宿などの開催
- C 国内外のエスペラント団体との共働
- C エスペラント以外の諸文化団体との提携
- D その他

第5条(大会) この連盟は、年1回北海道エスペラント大会(Kongreso de Esperatistoj en Hokkajdo)を開催する。

第6条(委員会) この連盟に、次の委員よりなる委員会をおき、連盟の事業を立案、実行する。

- A 委員長1名、副委員長1名、事務局長1名および各構成団体、個人会員の中より選出される委員。
- B 委員長は、この連盟を代表し、委員会を開く。
- c 各委員の任期は、定期大会から次の定期大会までとする。

第7条(財政) この連盟の会費は、個人会員は年額800円(学生500円)団体会員は1名につき600円(学生400円)とする。

会計年度は歴年とする。

第8条(会計監査) 前期の委員長が会計監査を行ない、大会で報告する。

第9条(規約改正) この規約は、大会の決議がなければ、変更することができない。

(連盟委員会提案)

INTERCIVIA KUNLOGADO (合宿)を連盟主催で、9月15日(祝日)16日(土)、17日(日)の5日間行なうことを提案します。

場所として、札幌、小樽、千才、室蘭、苫小牧から近く、宿泊費が安設備の整っているところで。

和文タイプ購入のための募金

さらに一厘のご協力を！ (第1回発表 5月31日現在)

- 3,000円 札幌エスベラント会
- 2,000円 池本盛雄、星田淳、平田岩雄
- 1,450円 菊島和紙(東京)
- 1,000円 木村喜任治、北島 暉、児玉広夫、永戸良一、沢谷雄一、高橋要一、浜田国貞、江口音吉、岡本善雄、斉藤千寿、新田為男
- 500円 林重正広、市田 崇、田原保一、小田島 栄、藤原信孝、村上 人、高野重雄夫、市川 忠、坂本京子、中森美穂、岡本京子、高野紀恵子、土香孝子

合計27,950円。ありがとうございます。中古タイプは、n-roを買手づるで、比較的容易に見つかりました。2,000円です。連盟の定期費からして買手が安かったです。しかし、他方、Leontodo n-ro 46 の送料を含め、今回届かなかった事とは何故か出費をされてしまいました。n-ro 47 の費用もげつとりかかると思われます。したがって、連盟の負担はまたなお不安定です。ひきつらぬ、和文タイプ購入のため生じたらるべく、会員のみまさんのはば広い財政援助を願います。第2回募金を9月末までつづります。送金には振替口座をご利用ください。

北海道エスベラント連盟；(小樽) 17075

(Sawaya, Y. sekretario de HEM)

¿Cu realizós la plano havi E-domon en Sapporo ?

5月29日、札幌の有志6人が集まり、n-ro46 にのせた「よびかけ」の反響を分析し、実現の可能性について検討しました。こちらの財政基盤は現在毎月maksimume 1万1千円ほど出せることが推算されます。しかし、1部屋だけ、団体で使用するという条件で貸してくれるところは、現実問題として見つけることが難しいので、2部屋ということになるでしょう。そうすると、部屋代として1万2千円程度、それに電気、ガスその他維持費として3千円、あわせて1万5千円ほど必要になつてきます。また、権利金、敷金も当初は必要です。そこで、結論として、①実際に部屋さがしをはじめること、②維持会員から、さつそく拠出金(会費)を集める。(もし、実現不可能ということがはつきりした時には返却します。)、③さらに札幌の同志の中から維持会員をふやし、財政基盤を確立する。という3つの活動が続けていくことになりました。とくに、札幌の同志のみなさんには、さらに一層の協力を呼びかけるものです。現在、「エスペラントの家」の維持会員となることを意志表示なされた方々は13名で次のとおり。

Hámada K.(浜中), Hirata I.(室蘭), Hukuda S.(釧路),
Kimura K., Kodama H., Kurokañá E., Macuoka K., Mine M.,
Nasu H., Saito Óieko, Sawaya Y., Simizu H., Takahañi J.,
それに、関西の若手活動家で、La Movado や R.O. 誌上で大活躍しておられる峰芳隆さんから1,000 円のカンパがありました。

(Sawaya Y., つくる会世話人)

◎連絡先；065 札幌市中央区宮の森 811 — 4, 雪印青英家内

Tel(011)611 — 1467

振替口座；沢谷雄一(小樽)16388

名・地、の・う・ご・き

Elementa Kurso en Sapporo

5月13日から毎週土曜日、中央タイピスト学院で、札幌エス会が主催。受講者14名、受講料は「新選エス和辞典」付きで1,500円、テキストはLa unua。

宣伝には、HELで作ったポスター30枚(スーロ木村がポスターカラーで美しく仕上げた。)を、スーロ藤井の「足」をかりて、大通りや地下鉄駅の電柱などにぶらさげた。新聞の催し欄は、道新、毎日が掲載。(朝日、読売、タイムスは未確認)。元受講生などに約40枚のはがきによるダイレクトメール、それに、道新市内版へ有料広告。少し時期が遅れたが、STVラジオの「ラジオ伝言板」がとりあげてくれた。

宣伝の効果のほどは、新聞5、ポスター3、ラジオ1、ハガキ1、その他1、(不明3)。

宣伝の準備にあたって、HELの individua membro である f-ino Miura にかたいへん協力していただいたことに感謝します。それにしてもSESの会員諸氏よ、しつかりしてください。

(Sawaya Y.)

公宥視察海外出張議員へのはたらきかけ

苫小牧エスベラント会は、今回市議会議員の海外出張に際し、行先のうき時間の余裕のありそうなパリ、ロンドン、ニューヨークの gesamideoj での mesaĝoj と donacojn を託した。これは、別掲新聞記事にもあり。出張計画がわかつたのは4月末、会員スーロ永戸の提案で取急ぎ手を打ち、いそがしかつたが、5月10日出発以後、なんとか各地グループとの kontaktoも願調のようで、ほつと一息。関係者にはご迷惑もあつたが、公職にある人に、この機会に Esp-ujo の universaleco, praktikeco を知ってもらえれば、また同時に internacia amikeco inter ni を強めることになれば結構と思ふ。経過次のとおり。

5月4日～4日 Samideanoj en Londono (per s-ino Kimie

Markarian), Parizo (Unuigo Franca por Esperanto), Nov —
jorko (s-ro Mark Starr) に連絡

5月10日 五十嵐、中村両議員出発。Mesago は次のとおり。

Estimataj gesamideanoj en

Ni esp — istoj en Tomakomai estas tre ĝojaj liveri
al vi niajn modestajn memoraĵojn pri nia hejmloko
Hokkajdo, la plej norda insulo de Japanujo.

Permesu min prezenti al vi la pentriston de la
bildo. Li estas konata artisto Matao KIKUŬI, naskita
en 1914, verkas ĉefe abstraktajn bildojn, tamen ĉifoje
li precipe verkis konkrete teme de pejzaĝojn en
Hokkajdo. Ni volas konservi tian belan naturon, reziste
kontraŭ lastatempa malpurigo de la natura medio.

Kun plej amikecaj salutoj

各 grupo あてに託したのは、この mesago と Pentristo 菊池又男の
風景画、絵はがき。なお、新聞記事は、朝日、室蘭民報に出た。

5月13日 S-ro Markarian 君枝へ速達 (武蔵野市)

雑誌 Samideano により日本訪問中とわかつたので、急ぎ TEJ A に関
合わせ TeJ.n-ro をきき、そこへ電話。Adreso と在日期間を確認し
たうえ出した。22日神田発、23日ロンドン着。一行のロンドン着と
同じ日、すれすれで間にあつたもよう。

5月20日 一行パリへ。Unuigo Franca por ESP. の Ges-roj
Guillaume と会見。Laŭ lia letero

Hieraŭ vespere (la 20a) mi vidis en hotelo Hilton
S-roj Igarasi kaj Nakamura. Mia edzino kaj mi salutis
ilin sed pere de tradukisto kiu parolis angle. Ni tre
bedaŭris tiun lingvan baron. Nur la okuloj kaj ridetoj
rekte parolis..... mi tre dankas al vi por la bela
pentraĵo de s-ro Kikuŭi. Ĝi estas tre gaja kaj artista.
Dankon ankaŭ pro la turisma propagaĵilo (Faldfolio
Hokkajdo) kiu estas tre bona. Ĉu vi sendis ĝin al la

revuoj Heroldo kaj Esperanto por ke oni faru reklamojn?
Je la nomo de nia Franca Asocio mi skribas por ricevi
plurajn ekzemplerojn.

五十嵐氏からは次のようにかいてきた。

パリではホテルにメッセージがとどいており、20日午後7時すぎ
JEAN GUILLAUME 氏ご夫妻の訪問をうけ・・・約40分程お話し
をじまいた。とても喜んでくれまして絵がすばらしいと感謝していま
した。60才をすぎたとても品のよい御夫婦で仲むつまじく終始笑顔
でお話しになつておちなました。奥様は又、宇宙人のことに非常に関
心をもつておられ、私が平取の宇宙人の基地の話しをしましたら、是
非写真を送つてほしいと頼まれました。

昨日(23日)午前中パリからロンドンに飛び・・・市内レストラ
ンで昼食のとき飛行場から私たちのバスに添乗されていた尾崎堅太郎
氏(アトラス・オーバーシーズ サービス株式会社)から私と中村氏
の名が呼ばれ、彼もロンドンの会員である旨を告げられ、マルカリア
ン君枝さんからの言づけていつお逢いできるかときかれ、24日午後
6時にホテルのロビーでということ別れました。

約束どおり彼の紹介でミセス君枝に逢い、更にヘレンプト会長並び
にブランリー氏(イギリスエスペラント連盟名譽書記)ご夫妻、イヤ
ンフアントム氏(エスペラント情報関係責任者)の皆様にお逢いしま
した。・・・ミセス君枝は、東京で貴兄(星田)の便りがご主人から
転送されてきた内容のみてびつくり、ロンドンの尾崎氏に電話で依頼
急ぎよ2日前に帰宅したと言つていました。尾崎氏は偶然にも東京ト
ラベルセンターから私達一行の世話を引きうけており、到着の月日の
13名という人数が同じなのでもしや?と思つていたそうです。

とにかく貴兄や永戸氏の友愛の心が、善意に満ちた人々の暖かい心
によつてロンドンのエスペラントの方々に通じ、私達のような者でも
お役に立つことができるともうれしく思いました。それにつけても
エスペラントがもつ友情と連けい、人間愛のすばらしさ、今更の如く
認識を新たにし敬感をささげます。

26日午後ニュー・ヨークのサニットホテルに着きました。ニュー・ヨ

クのエスペランティストの方からメッセージが届いていましたが、今度はエスペランティストが付添っていないのでわかりません。今夜か明日でもホテルに訪ねてきてくれるといいのですが・・(26日 pm 7時)

Raporto de Tomakomai Esp-Societo

市会議員の旅行、Fino 木村の旅行別記のとおり。

例年の春の kurso 5月8日から開幕・・・今年は宣伝が行きとどかず、第1日は新人ゼロ。第2日から新人2名、旧人2、3名。他新人で白老から室蘭へ通う Fino 熊倉、室蘭で kurso 参加を希望。室蘭 Societo やつてくれませんか。

事務局より

- ◎ 7月の北海道大会で何か決議、提案などをお持ちの方は、至急事務局の方に、提案事項、提案理由、解説を送ってください。kongreslibro を印刷しなければなりませんので。
- ◎ 事務局で宣伝用パンフとして、La Movado から「エスペラント学習をすすめる」と、R.O.'72 年1月号から「ベトナムのエスペラント運動」の別刷を1,000部づつ作りました。実費で個人および各グループにおわけします。(「すすめる」100部250円、「ベトナムのエスペラント運動」100部400円)
- ◎ 昨年の小牧大会から今までの道内各地のエスペラント界のうごきを一見してわかる「kronologia tabelo」をできれば kongreslibro につけ加えたいと思います。各 Rond あるいは個人で行なつた活動を簡潔書きにして、事務局へ6月26日までにお知らせください。(例; 1971, 9, 24 ~ 26, Intensiva Kunlogado de ESP.(HBL), 16名参加、千才市青少年研修センター)
講習会、例会については、使っているテキスト名も。新聞に記事が出たときは、その新聞名、月日も、より詳しい内容、活動から得られた経験とか教訓とかは、大会のときに報告してください。
- ◎ 今期の会計報告(1971, 8, ~ 1972, 6)は kongreslibro で。

TEJA の合宿に参加して

TEJA恒例の焼津における合宿が、去る5月の連休5日間にわたって行われました。

私もなんとか都合がついて、親友のfino齊藤と2人で参加することができ、楽しい思い出をつくることができました。

参加者は、初級から上級まで120名くらいで、皆若い人(精神的に)ばかりでした。私のクラスには、s-ro中山という八王寺から参加した、もう60才は過ぎた若い方がいらつしゃいました。

朝8:30~9:50までkanboとbabiladoです。babiladoは3分ごとと一つづつ席をずらして交代していくので、その度に名前と仕事と、札幌から参加したという、相手が「札幌から!」と驚いてまた交代といった具合です。本当は私がそれしかエスペラントで話せなかつたのです。

6日の合宿最後の夜は、海辺でkampfajroです。s-ro齊沢ともう1人の方2人で、頭に白いものをかぶり、上下白い衣をまとうつて座り、エスペラントで一生懸命(15分位い)お祈りをして火をおこしました。そのまわりで、二つの室が一組になつて、一つずつの出し物を披露しました。それがとてもおもしろくおかしいのです。

それに、エスペラント国の大統領選挙もあり、s-ro小西が再選されました。

そのような楽しい日々を過ごしたあと、来年こそは、より多くの人に、より多くの事をエスペラントで話しかけたいという思いがして、勉強する気がおきてきました。これが合宿の一番の目的でもあつたとは思いますが、今、エスペラントをやつていて倦怠期にかかっている方、もう一步エスペラントに入つて行けない方は、来年も焼津で行なわれるはずですので、是非都合をつけて参加なさるとよろしいかと思ひます。

★百聞は一見にしかず★

黒川 恵美子 (札幌 R・N)

エスペランティストのみなさまに

永戸良一 (苦小牧)

昨年秋から、エスペラントを学びはじめて、早や半年をすごしました。その間にいろいろなことがありましたが、感じたことを書きまわす。卒直に申しあげて、こんなにすばらしい、希望をもつた「ことば」が、世界史上に具体的に存在するとは驚きです。「なんだ、今さら、へんにおべつかつかりな」誰かさんに叱られそうですが、本当なのです。本心で申せます。

他民族を侵略しない、自国語を失わない、永い悲慘にみちた世界史に、失望から希望へ、対立から対話に、怒りからほほえみに変化する人類に、当然必要をせまられることばとして、世界史はザメンホフ師をはげまして創造されたものと信じています。

中国人民の偉大なる指導者 Maū Zedong 主席は

Sen enketo ne estas rajto de parolo !!

この名警句のある論文の終りの方で

「自分は、なにかもわかっている、他人がわかっているだけだなどというようでは、けつしてない。全党の同志といっしょに、ひまつぶき小学生になつて大衆に学ぶ。これが私の念願である。」

農村調査のはしがき (1941, 3.17)

ことばを教えたり、学んだりする姿勢に通ずる論文です。私は、キリスト者の一人ですが、日本のキリスト教の指導者が、英語にたんのうであつても平和と希望と深い信仰から生れたエスペラントを学んでおられる人の少ないのには驚きです。にもかかわらず、みなさんは、こんなにすばらしいことばを知つておられ、また、学んでおられる、そして、より高い語学に進まれておられることに敬意を表します。これからは、ザメンホフ精神を大いに發揮して、エスペラントのエの字も知らない人々に、時に応じて、目をみはらせる程の情熱をもやしてみてください。冷たい風を送ると、人々はますます厚いオーバーを着てねむるでしょう。あつい風を送りなさいよ。人々は裸になつて水にとびこみ、およぎはじめるのではないでしょう。

みなさんの未来にすばらしい夜明けが訪れますよう熱望いたします。



ロンドン大会に参加して

堀江 精一（遠軽）

4月10日に沢谷さんから、ロンドン大会参加記を書けというお手紙をいただきました。何んとかnia lingvoで書きたいものと苦心しましたが、実力がありません。止むを得ず日本語になつてしまいました。

昨年3月JBIから、ロンドン大会Karavanoの案内がまいりました。私のような未熟者がどうして外国の国に行かれるでしょう。恥しいことだと思いましたが、日程を見ているうちに、しきりに食指が動きまわりました。これで海外旅行ができるではないか。少年の頃、欧州航路にあこがれたヨーロッパに行けるではないか。でも、皆さんの面よごしになつたらどうしようか、そして2カ月考えましたが、老先短いことだし、思い切つて申し込みました。

いよいよ7月27日、ベルギー、サベナ機で羽田出発です。晴れていましたが、むしあつくて雲の多い日でした。nia karavanoは総計23人。その大半は外国になれた方です。肩身のせまい思いでしたが、はじめて雲間に富士山に別れをつけて鹿島たつ昂奮で胸が一ぱいになりました。南まわりで最初の着陸地はマニラです。夕方でしたので有名入目をさがしましたが、曇つていて残念でした。機中泊し、あけてアネ着。はじめてヨーロッパの土をふみました。間もなくブラッセルに上つて離陸、雲もありましたが、空は澄んで、アルプスの山々がはつきり浮んでいました。ブラッセル空港で中食をとり、エールフランス機に乗り換えて1時間ばかりでパリ着。ここが最初の宿泊地です。出口に向けて歩いていると、荷物車を押してきた男が、私たちの列を横切るとき「アタクション シルブレン」と叫びました。何んだ、ラジオとT.V.で習っているとわがフランス語ではありませんか。パリでもそのと

りだつたとうれしくなりました。宿に入つてから、女中さんが部屋の片付けに来て、トランクは着いていないのかと言つたので、思わず「バザンコール」と答えました。それがもとで、karavanoの皆さんからフランス語通だと思われ、食堂の注文や買物の案内などおおせつかつて、やつと肩身がほぐれた次第です。パリの次はロンドンです。ホテルの女中さんが大しためんとい少女だつたので、パリで味を占めていますから、いろいろ話しかけましたところチンチンカンです。フランス語より英語の方が自信があるんだが 女王英語 のロンドンではやつぱりだめかとかつかりしましたが、実は彼女、スペインからひと月前に来たばかりとのことでホツとしました。

56a UKの開会式はピックベンの対岸、テムズ河沿いのロイヤルフェステバルホールです。同室の人とふたりで地下鉄で行きました。曇つた寒い朝でした。中に入つて開会を待っているとき、向うのろう下に振袖姿の日本娘がひとり席をさがしている様子なので手招きしたらよつて来て、となりに腰をかけた。この3月、高校を卒業するなり、5人の友人といつしよに、女ばかりで、ソ連経由でやつて来て、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペイン、フランスとまわっているうちにみんな別れ別れになり、当人は、UKに申込んでいたので2日前にロンドン着。

UKが終つたら仕事の口があるのでエジンバラに行つて9月末日本に帰るといふ話です。明治生れには只驚きでした。式場には約3千人が列席していました。ファンファーレにはじまつた開会式は厳粛で力強く、

ここに世界はひとつになつた という感激でいっぱいになりました。

Dro. J. Wellg(?) の英語国におけるエスペラントについてのお話は興味を持って熱心に耳を傾けたのですが、途中でどうとう分らなくなつてしまいました。帰りにテムズ河を渡つてピックベンの方に歩いてい

と、私の襟の verda stelo を見て、ひとりのしんしが声をかけて来ました。デンマークの古いエスペランティストで、若い頃は何度も UK に出ていたが、今回は申し込まず、私用でロンドンに来たと話していました。次の ~~日~~ 分科会です。ロンドン大学でやりましたが、会場があちこちはなれていましたので、のぞきに行くのに大変でした。karavai の皆さんが、なつかしそうに ~~諸君の~~ gosamideanoj とお話ししているそばで、毎日うらやましそうに聞き耳を立てているばかりでした。

ロンドンでは、ひとり歩きが多かつたので、地下鉄にも、二階バスにも、1週間のうちにすつかり馴れました。とみ合つていて、からだがふれると「エクスキューズミー」とすぐ言うので、私もそう言うようにしたのですが、至つてやさしい言葉ですけれども、何んがか空々しい気持でした。ある時、思わず「失礼」と日本語が出てしまいましたら、相手の人によく通じました。実感がこもつていたからでしょう。トインビーのエスペラント反対論を思い出しました。

8月7日、ルフトハンザ機でロンドンから一路西独フランクフルトへ飛びました。ゲーテの生れた所でゲーテ記念館があります。うまくて安いソーセージを夜店でたらふく食べました。次の日はライン下りでローライの正体を見ました。その辺、ラインの水は真黒で水泳禁止です。

8月9日、貸切り大型バスでフランクフルトを出発。ハイデルベルクによつて古城と大学を見物。ネッカー川もきたない水でした。その晩、ドストエフスキーの賭博者の舞台となつたバーデン。バーデン宿場バリからずつと、どこへ行つても日本人の団体がいつぱいでしたが、この地だけは観光客がなくて、玉様や金持ちの有閑博徒でのんびりしていました。賭博場は市営で緊張り公務員は燕尾服姿で真面目な顔をしていました。翌10日、グエアルツフルトを通つてアウトバーンを一路ス

スに向つて走り続けました。ロンドンでは日に1度か2度は雨が降つてひやつとした陽気でしたが、大陸へもどつてからは、またずつと快晴続きでさわやかでした。スイス国境にラインの源流ラインフォールがあつて、そこで中食をしました。水の澄んでいること、水玉の輝きの美しいこと。この水をずつとよごさずに下流まで流すようにしたいものです。

次の日、バスとケーブルでアルプス連峰のひとつ、エンゲルベルグに登り氷河の一角にちよつとさわつて見ました。沿道の農家は、まわりに薪を高く積み上げていて、北海道のことがほほえましくしのばれました。チューリッヒにもどつてから、北海道教育大学の三沢先生といつしよにベスターロッテの記念物をたずねましたが、もう生地では人々の関心がうすく、いろいろ聞いて歩きましたがついに分りませんでした。

明けて8月12日、バスはチューリッヒを出て湖に沿ひ、氷河のあるアルプス連峰に平行して走ります。リヒテンシュタインでバスを降りてひるめしを食べました。この国は、人口2万たらずで王様がいます。食堂がこんでいましたので3人の婦人のいるテーブルに割り込ませてもらいました。その人たちはスイス人でドイツ語をつかいます。私が勘定をするとき、貨幣をあれこれと調べているのを見て、ヨーロッパ旅行は通貨が国毎にちがうので大変だろうと同情してくれました。カレルギーの発想に従つてヨーロッパはE.C.に向つています。通貨も言葉ももつと便利になるといいですね。リヒテンシュタインを出るとオーストリア・チロルです。ジュナイダースキー学校などあります。その晩、インスブルックに泊りました。夜チロルアンサンブルの公演を見に行きました。ゲシュピステル・グンドルフという小さな民芸団ですが、郷土色豊かで素材で人なつつこく、大変気に入りましたので、その絵葉書を芸団の女優さんの所に買いに行きましたら、その女優さんが仲間の人々に向つて

「ディーゼル マン スプリット ドイツェ」(この方ドイツ語を話しますよ)とうれしそうに叫んだのには感動しました。おたがいに分つてこそ言葉です。次の日、バスはブレンナー峠をこえてイタリアに入りました。ベニスの宿ではイタリア 에스ペランティストの来訪を受けました。サンマルコ寺院の広場にはヒッピーがたくさんいました。アメリカ人が一番多いようです。晴天続きでしたから、峠の向うではさわやかでしたが、イタリアに入つてムツソリー~~の~~の作った太陽道路を南下するに従つて猛烈な暑さになりました。フィレンツェにもローマにもヒッピーがゴロゴロしていましたが、野宿に都合がよいからでしょう。

ローマでドルショックにあい、銀行に行つて1日20ドル換えてもらうのにいろいろ審問検査をされて閉口しました。

この karavano もローマが事実上の終着駅です。バスのエスコートに入つて、みんなで分散会を やりました会場でふんだんに歌われた本場のカンツォーネは、今でも耳に残っています。

8月18日ローマ空港を出発、夕方アテネでサベナ機に乗り換えました。サベナはベルギーの航空会社です。スチュアデスはベルギー娘ら1人、ほかビルマかタイ娘、そして日本娘が各1名乗っています。機内のアナウンスは、はじめベルギー語、それからフランス語、ドイツ語、英語の順に放送し、最後に日本人スチュアデスが日本語でやりま日航と特約している日欧線ですから乗客は殆んどヨーロッパ観光帰り日本人でした。通路にいた日本人スチュアデスに向つて、日本人乗客ブリーズ と呼びかけましたら、そのスチュアデスはきつとふりかへて日本語が通じますよ と甲高く叫びました。生活体験から来た：国語の支配をうけたくないという切実な気持の表われでしょう。

沖縄上空でうす暗くなり、8月19日夜10時羽田に帰つて来ま

UK参加記のご依頼でしたが、天皇訪欧記と同じようなものになつてしまつて苦笑しております。しかし、単一言語国の日本を離れて1ヵ月近く、少し行くと言葉も通貨もちがう国々をまわつて来てよい経験をしたと思います。エスぺラントが生れてからもう一世紀近くになりますが、その発生地ヨーロッパでも人々が一番知らない言葉はエスぺラントでしょう。まだ世界の人々にはほんとうの国際生活がないからではありませんか。現実はその必要を迫つております。私も心を新たにして勉強しなければなりません。何とぞ皆様のご指導をお願い申しあげる次第です

El mia vojaĝo tra Eŭropo

木村洋子(茗小牧)

ちよつと機会があつて、4~5月にかけて2週間ほどヨーロッパを廻りました。ESPとは全然関係のない旅行だし、誰にも黙つて出るつもりでしそが、S-ro星田にかぎつけられて、F-rino 永田明子や Del-
gitoj de UEA の連絡先など教えられて出発しましたが・・・

同行グループの人が画家、デザイナー、コピーライターなどさまざまな職業の人で面白い旅でしたが、自由時間も、あれこれと見る事が多く、忙しいものでした。

◎ わざと英語を使わぬフランス人

パリには5日もいるので、できればロッテルダムのUEAへでもと聞いてきた番号を示し、ホテルのフロントでおぼつかない英語で電話をたのみましたが、2日つゞいて応答なし。4月30日は日曜、つゞく5月1日はメーデーで多分向うも(UEA)休みなのだらうとのことでした。話には聞いてはいましたが、フランス人は英語を使いません。それも全然知らないわけではなく、わかつてはいるのに、外国人に

対しては先づフランス語を使い、「プリーズ、プリーズ」とたのんでやつと最少限の英語を使い。英語しか使えない日本人同志では「シヤクだわね」なんていつてましたが。フランス語に対する自尊心でしょうか。英国ではテーブルマナーなんか、困苦しいふん困氣、それに対し、全然そんなものをかまわぬフランス 対照的でした。

◎ F—ino 永田明子と話す (nur telephone)

結局、連絡がつかないうちに日が過ぎて、5月2日、ようやく電話が通じました。先方が出たとのフロントの合図でボックスに入り、受話器をとると「ハロー」ときた。さてこれからESPを使わねばならない。

「Ou U—A—A?」

「Jes..」

「Bonvole donu al mi F— inon Nagata..」

「Atendu.....」

ESPを使つたのはここまで。「もしもし、もしもし・・・」とすぐせきこんだ声のとびこんできました。

「小牧の木村です。星田さんからよろしくつて言つてました。実はもつと早くからバりにいたんですが連絡がつかなくて……。ほんとはロツテルダムまで行きたかつたんだけど・・・」

「あゝそうなの、ゆつくりできればよかつたのに・・・」と残念そう。

「お元気ですか?」

「元気 元気! 今度はぜひオランダだけを見たいわいよ……。気をつけて、楽しい旅行になるようにね……。ほんとにわざわざありがと……。」とこんな調子でした。あとで聞くと、8日に結婚されたとのこと、驚きましたが、全然その話しはありませんでした。

◎ イタリヤでESPを通じた電話

イタリアでも、ホテル以外ほとんど英語は通じません。レストランでも、日本
日本人は時々話しが通じず困ることがあります。新しいコップをもらいた
いので、誰かが英語でいつてみたが通じない。ためしに

"Bonvole novan glason....."

といつたら、オーと笑つてもひびいてくれました。水を入れたら、ごみが
浮いているので、かえてもらおうと"Rigardu!"と指さしたら、"オー
ペルドン(?)"とESPのままの会話のようになつて、ボーイがきれいなコ
ップにかえてくれました。

注) ESPとイタリア語には似た単語も多く、こんなことはよくあるよう
です。s-roj 梅田善美、出口京太郎はイタリア旅行中、こちらはESP
で、イタリア人の話し相手はイタリア語で話しながら、結構、あらゆる
話題を話し合えたそうです。

INTER NI

◎s-ro 池本盛雄

"住宅難のおかげで、幸か不幸かビルの群を眼下に見下す高台の一隅に
どうやら落ちつけそうな寓居を見つけることができた。"とのこと、
新住所は

450 静岡県浜松市三組町45-4 妻 荘

◎s-ro 大島俊之

北見工大 開発工学科の助手に

090 北見市寿町4-5-3 龍田 方

◎s-ro 児玉広夫

道総務部税務課長補佐として再び札幌へ!

065 札幌市西区琴似八軒7条西6-851-3

◎eksf-ino NAGATA Akiko

去る5月8日ロツテルダム市の役所でWOESSINK Evert J氏と結
婚! もちろん新郎もesperantisto. おめでとがり!

Nova adreso; Ouder de Beunkes 29, NL-6200-Velp
(Gld.), Nederlando

- ◎ S-ro Josihara は、都合により、Portlanda UK の参加を取り
た。Ĉu neniu el Hokkaido partoprenos en la UK ?

ESPERANTO KAJ ESPERANTISTOJ EN ĴURNALOJ
KAJ GAZETOJ

- ◎朝日ジャーナル 5月5日号 “近代日本と中国”シリーズの中に“
シエンコと長谷川テル”について高杉一郎が8ページにわたって書
いる。

- ◎社会新報 5月7日号 前TEJA委員長の芥沢潔が投稿。“社会運
不可分の一翼をになう言語運動としてのエスペラント運動が、社会
展の中で正しく位置づけられ、認識され、理解されなければならな
とを強く訴えるものです”と結んでいる。

- ◎室蘭民報 5月11日夕刊に写真入りで 苫小牧エス会が環境汚染
対の立場から、北海道の自然を描いた水彩画を、ニューヨーク、ロ
ン、パリの同志にエスペラントで書かれたあいさつ文とともに手渡
り、苫小牧市議会議員の視察団員に託すと。同じ日の朝日新聞室書
も出た。

これは、TESの有力会員であるs-ro 永戸の積極的働きかけ
つたもの。

- ◎最近、大修館から新しく発刊された専門誌“言語”6月号読者欄に柴
一が“人間語の論理と機械語の論理”と題して、エスペラントにも
ながら書いている。

- ◎朝日新聞(室蘭版)に、^{本紙掲載}さらに苫小牧エス会が託した水彩画に手
札がパリから届いたことを。

Lernantas.....? Sciintus.....?
(エスペラント文体の進化は印歐語の逆行か?)

星 田 淳 (苫小牧)

Leontodo N-ro 45(1971,dec.)に mi lernantas esperatton
という文があり、「こんな文はどうだろうか」との疑問も出されていた。こ
の形、ne-zamenhofaではあるが、ne-zamenhofo 即ち ne permesata
でないことは、lingvaj respondojで Z. が onia, onin なども認めて
いるところから明らか。私自身、やり始めの頃、さかんに lernantas,
surprizitasなどを使つた事がある。もちろん、標準的な形として使われて
いるのは、estas ~ anta, 又は ~ ita の形であり(これを分析的形態
analitika formo という)、lernantas のような合成語形態(sintesa
formo)は使わなくなつていた。

1 lernantasは誤りか?

しかし、この形が間違ひとも思つて止めたわけではなく、考えてみても、
ESP.の単語合成の規則に反するものは全くないので、この形は使われて
いいものと思う。

2 sciintusとなると、ESP.の ~ us に時相がないので、分析的な estas
~ intaでも sciintusでも必要な場合が多い。

UEAの Lingva Servo, A.D. Atanasovはこの問題について「この形は
ESP.の造語法から正しく導かれるものであり、分詞形の動詞化、即ち

sciinta sciintus, sciintas

は、従来も例のあつた形容詞の動詞化

prava —→ pravas

grava —→ gravas

と同様のものであり、文体に変化と活気を与えるものだ」と賛成している。
(Esperanto, feb. 1971)

また、Plena Gramatiko de ESP.でも、sciintus等は、条件法の
相を明示する有効な方法としてあり、他に次の例もあげている。

Laŭdatu Jezu — Kristo !

この点については、東ドイツの der esperantist でも (Jul. — August)

1971) ても、TEJO(世界エスペラント青年組織)大会での青年たちの話し方について、analitika より sinteza formo が好んで使われる傾向をのべ、その1例に、この sciintus をあげている。

3 Perferemo sinteza formo la analitika de esperantisto のあげている他の例は、もつと面白い。

iru vespermangejen = al

sloganmarso cefplacen = al, sur ~ en

invitatas, petatas = estas ~ ata(d)

前置詞を使い形より、語尾変化 ~ en で場所、方向を示す形の方が好まれるらしい。ヨーロッパの言語では古くかは皆名詞の格変化により、外の単語との関係を示していたが、だんだん格変化が消えて、今のように前置詞を使い形が一般化した。この ESP. 会話の最近の傾向は、このインドヨーロッパ語の一般的傾向に逆行して、語尾変化を活かしていることとするもので、日本語の助詞「てにをは」に似た感じとなる。こんな点、Lingvo internacia にふさわしい、さまざまな用法が、ひとつの言語の中に生きているわけで面白い。

EL NIA LETERKESTO

Takatuki, 29/aprilo/'72

Estimataj sinjoroj:

Kun danko mi ricevis vian organon; LEONTODO n-ro 46. Antaŭ kelkaj aŭ dekelkaj jaroj dumtempe mi abonis Leontodon, kiu estis ampleksa simile al la nuna laŭ mia memoro, sed la enhavo fariĝas pli altnivela, tiel mi supozas. Precipe, traduklabore de Jukaro estas tre alte taksinda, ĝi alportos grandan kontribuon al esperanta literaturo, mi kredas. Mi esperas, ke la labore subtenata laŭ daŭra persista kunlaborado de la volontuloj.

Nur danksaluton, tute via

Tanaka Sadami
(subskribe)

Takatuki Esperanto-Societo

PLIALTIGU . . . ESPERANTO-MOVADON EN HOKKAJDO!!

Kie estas la kaŭzo de la malvigleco de nia movado en Hokkajdo? Ĝenerale oni trovas la kialojn de malviveco en 1. kvanta kaj 2. kvalita aferoj.

Unue pri la malvigleco de la movado, kaŭzita de kvantigeco. Malvigleco pro kvanto signifas nur solan staton, "manko de 1'aktivuloj". La rimedo, kion oni plej ofte uzas por plenigi la "manko"-n, estas "kurso".

Por kolekti plej eble multajn homojn al la kurso, preparo ĉiutaga estas necesa. Ni devas ĉiam propagandi pri Esperanto al niaj ĉirkaŭuloj. Sen tio, nur per afiŝoj, flugfolioj kaj ĵurnalanoncoj momentaj, ni povas kolekti nur malgrandan konscian parton. Estas unu el nia gravaj devoj, kiel konsciigi la nekonscian parton. Tial ni devas prepari ni por publikanoncaj agoj, ekzemple kurso, tra ĉiutaga propagando.

Due, pri la malvigleco pro kvalita afero. Kvalita kaŭzo estas antaŭ ĉio "malalteco de problemkonscio" pri Esperanto. Ne nur en Hokkajdo sed, ni povas diri, en japana movado, kiom da aktivuloj agas kun "problemkonscio" pri Esperanto? (Bedaŭrinde malmultaj, mi pensas) Tio havas profundan rilaton kun la enhavo de lernolibroj, kun la arango de kursoj. Ĉar oni instruas nur la lingvon Esperanto, sed ne Esperanton. Ĉu la kono de la gramatiko kaj la historio estas sufiĉa? ---Ne!! Do, kio alia estas?

Kial naskiĝis Esperanto? Kiu estas la vojo kiun Esperanto devas iri de nun? Kaj kion devas ni fari? Kiel Esperanto estas difinita en sia pozicio, en ĉi tiu ŝanĝanta socio? ---Ĉu iam oni faris tiajn diskutojn? Ĉu la gvidantoj de nuna Esperanto-movado en Hokkajdo klare povas respondi supreskribitajn demandojn?

Ĉi tiu agado kun "problemkonscio" estas ofte kaj facile ignorata, sed ĝi estas tre grava problemo. Tion parolas la disvolvigo de 1'Esperanto kulturo de la epoko proletara

esperanta en la 1930aj.

En la komenco de ĉi tiu artikolo mi dividis la kaŭzojn malaktivecajn en la kvantitan kaj la kvalitan, sed fakte ĉi du faras movadan malviglecon en la formo miksita.

Tamen se ni venkos unu kaŭzon, ni povos venki alian, en nia movado ekzistas kvanta kaŭzo, sed pli granda problemo estas kvalita. Por venki ĉi tuin kvalitan kaŭzon, ni devas propagandi (ĉiutage). En tiu agado ni devas retrovi la problemon, kion ni ne multe pensis, kaj plifortigi nian ideologion Esperantan, samtempe ni povas multigi la simpatiantojn, pro klarigi la signifon de l'ekzisto de Esperanto en nuna tempo.

De hodiaŭ ni devas komenci nian agon. Tra ĉiutaga propagando ni devas plialtigi la konscion ĉi de la popolo de Hokkajdo pri lingvaj problemoj, speciale pri Esperanto, kaj dume gajni nian fortigon de l'Esperanta ideologio.

NI BATALU POR PLIALTIGI L'ESPERANTO-MOVADO EN HOKKAJDO!!

Ne forgesu, ke Esperanto estas ne sole simpla lingvo, kiun ĉiu el ni uzas nur por siaj propraj bezonoj, sed ke ĝi estas grava socia problemo. (D-ro Zamenhof)

(5)

Tajpantino (ne tajpietino) de Leontodo
 からお願い!

この号から、みなさんのご協力により購入されたタイプライターを使わせて
 いただいております。もう8年以上も前のことですので、その当時のスピ
 ードは出ないまでも、前号より時間が短縮されますので、たいへん助かつて
 おります。しかし、一応、タイプを打ち上げるのは Leontodo 発行月の前月
 末日までという沢谷さんとの事前の打合わせによつて、仕事その他の調整を
 しておりますが、今号はぼとぼと参りました。6月発行だから、5月中に打
 ち上げるということで、5月から6月にかけて例年決つてしなければならな
 い残業を6月からということで予定していましたが、連日残業に入つたとた
 んに原稿が届くといつたハメになりました。それも、ご覧のとおり、今号に
 のせなければならぬものがほとんどで、さりとて Leontodo の発行時期を、
 おくらせるわけにもいかず、今のところ、私の一存で仕事の予定をある程度
 変更できるとはいうものの、これ以上仕事のペースをくずすわけにもいかず
 に閉口しました。何を泣きごとをとおつしやる方もいらつしやるかも知れま
 せんが。。。。。

原稿の内容によつて、また、時期によつて、少しぐらのおくれてもよいも
 のならともかく、一応原稿の〆切日をお守りくださつて、もつとスムーズに
 Leontodo が発行できるようにご協力をお願いしたいと存じます。



XX (Kitabatake, H.)
 編集ノート
 XXX

※ 和タイプを購入したにより、たいへん読みやすい機関誌になり
 ました。しかし反面、タイプ打ちを引き受けてくれた北島さんには、機関
 誌が直線になれぬならば、大きな努力を提供していただくことにな
 ります。次号の原稿は いらおう Sawaya の方に送つてくだい。

※ 苫小牧大会よりはや1年近くたつてしまいました。この1年間にわたりの
 得たものは、何だったかはとんちなことをたてようか。 Rio estas Esp...
 Rio devas esti mia movado? 長期の展望と、実践の日常活動の取組の歴史を

※ とおかくわ #1044より4号の編集をするハメになりましたが、一番恐れたこと
 Shibanboj がつかないという事です。悪化化することは、悪化現象のあらわれ、新
 書までと悲観的に考へていくことまでです。(Sawaya)

KIO ESTAS DUONKONDUKTANTO?

Iĉikaŭa Tadaŝi (Hakodate)

Sen la ekspluatado de duonkonduktantoj, neniu povintus atendi la lastatempam disvolvigon de elektroniko, ekz. elektro-korespondado, komput-maŝino ktp, mi pensas. Ĉar transistoro, diode k.a. estas faritaj de la kombino de pluraj duonkonduktantoj. La tempo de vakua tubo estis jam pasinta.

Ĉiu materio konsistas el unu kerno kaj kelkaj elektronoj, kiuj ĉirkaŭflugas sur orbitoj ĉirkaŭ la kerno. Ĉiuj orbitoj estas deciditaj laŭ energiniveloj de la elektronoj. Kompreneble kelkaj el ili estas sur la plej malpreksima orbito de la kerno.

La forto de la kerno inverse propicias al la kvadrato de distanco. Tial, se la ekstera potenco estas donita al la plej malpreksima elektronaro de la kerno, ĝi elflugas el sia orbito. Oni nomas ilin liberelektronoj. Tiamaniere moviganta elektronaro formas kurenton. Cetero laŭ la promeso, oni nomas ĝin "kurento" la retro-direkton de la elektronfluo.

Konduktanto estas la materio, kiu enhavas multajn liberelektronojn. Sekve la rezisto estas tre malalta. Sed izolajo ne estas tia. Pro tio la rezisto estas ekstreme alta. Kaj duonkonduktanto estas materio, kiu havas relative altan reziston. Kiel oni bone scias, diamanto estas kristalo de karbonaj atomoj. Tiukaze ĉiu atomo havas kvar liberelektronojn sur la plej ekstera orbito. Sed tiuj ĉi elektronoj ludas rolon forte kunigi ĉiun atomon al la najbaraj en la kristalo. Plie tiu ĉi kunigo estas tiel forta, ke ordinara ekscito ne povas doni influon al la strukturo de kristalo. Nome, diamanto estas tre stabila izolajo.

Ankaŭ germaniumo kaj silicio havas kvar liberelektronojn po atomo, kaj povas kristaliĝi. Sed la atoma kunigo estas pli malforta ol diamanto. Tial malforta ekscito (ekz. iomete varmigi, doni lumon aŭ malaltan tension) povas facile elpeli partajn liberelektronojn. Ordinare elektrono kunportas minus-elektron. Plie, en la okazo de duonkonduktanto, "truo", el kiuj elflugis jam elektronoj, kunportas plus-elektron, t.e., kompare kun konduktanto, laŭ la diferenca principo, fluas la kurento en la duonkonduktanto. (daurigota)

duonkonduktanto 半導體 liberelektrono 自由電子
izolajo 絶縁体 kurento 電流 silicio シリコン

Rakonto de Dio Strigo pri si mem (daŭros de n-ro 46)

- 260 Kun larmo kaj ploro
diris li en adoro
tiujn vortojn.
Kaj li, la maljunulo
ekstere
- 265 hakis lignon por inaŭo,
kiun li faris tre bele
kaj ornemis min bone.
La sinjorino maljuna,
zonon metinte nete ĉe l' tali'
- 270 ordonis la knabeton
preni lignon por brui,
preni akvon,
por prepari sakeon.
Baldaŭ, dum momento jam
ses barelojn oni metis
en la honora angulo.
Kaj mi havis ĝuan tempon
interparoli kun Diino,
Diino Fajro maljuna,
- 280 pri diversaj aferoj
de la dia regno nia.
Post du tagoj
odoro de sakeo,
la ŝataĵo de la dioj,
- 285 ekŝvebis
en la domo.
Do ili sendis
la knabeton
intence
- 290 en la vesto malnova
al la riĉuloj
en la vilaĝo,
estintaj antaŭe malriĉaj,
por inviti ilin
- 295 al la festeno.
Mi sekvis okule
la knabeton.
Kiam li vizitis ĉiun domon
kaj anoncis invite,
- 300 la riĉuloj,
estintaj antaŭe malriĉaj,
nur mokis ridegante,
"Mirinde, ho dio!
Kun kia sakeo

305 kaj kun kiaj frandaĵoj
 kuragis la malriĉulaĉoj
 nin al si inviti?
 Ni iru kaj ridu moke,
 spektante, kion ili
 310 prezentos do
 antaŭ ni!"
 Kvankam ili multope
 venis amase kaj babile,
 surprizitaj pro l' rigardo
 315 el la fero de la domo
 bele ŝanginta sin ununokte.
 Pro hontemo de sia koro
 kelkaj tuj retiris sin,
 kelkaj venis domfronten
 320 kaj ne povis stari pro miro.
 Tiam la sinjorino,
 dommastrino maljuna,
 montris sin eksteren
 preni manojn de ĉiuj;
 325 por enigi ilin.
 Ili ĉiuj envenis
 rampe sur la genuoj,
 neniu tiam kuragis
 saluti la domanojn.
 330 rekte vizag' al vizag'.
 Kaj la mastro
 de la domo
 starigis por salutadi
 kaj l' aferon klarigi.
 335 Li parolis tiel klare,
 kiel kukolo arbare,
 kio kaŭzis, kiu ŝuldis,
 kiel okazis, rezultis.
 "Pro nia ĝisnuna povreco,
 340 kun vi amikiĝi ni ne povis.
 Tamen en ni, Dio peza
 nenian malicon trovis,
 nia pro kompato dieca,
 per la donacoj favoris,
 345 kiel vi vidas, jen tiel.
 De nun ni
 ĉiuj vilaĝanoj,
 fratoj, idoj de
 sama klanó,
 350 estu en amikeco,

- 351 ĉiam vizitadu reciproke,
tion mi deziras elkore
al vi, sinjoroj de la vilaĝo."
Aŭdinte tion
- 355 la sinjoroj
pardonpetis de la mastro,
kun la manoj kunigitaj,
ĵuris, ke ili de nun estu
ĉiam bonaj amikoj.
- 360 Ankaŭ riverencis min ĉiuj.
Tiam
ili ĉiuj
kun milda koro
festenis en gajo.
- 365 Ĝuante interparoladon
kun aĝa diino de la fajro,
dio maljuna de la domo,
kaj aĝa diino nusa-eja,
pri diversaj okazaĵoj,
- 370 mi amuzis min
per la rigardo de
homaj dancoj variaj.
Pasis du tagoj,
tri tagoj,
- 375 finiĝis la festeno.
Kun la koro jam trankvila
pro la paco kaj amikeco,
plena inter la vilaĝanoj,
mi salutis adiaŝe
- 380 la diinon de la fajro,
dion aĝan de la domo,
kaj diinon nusa-ejan.
Kaj mi revenis
al mia domo.
- 385 Jam antaŭ mia atingo
estis mia domo
plena de
belaj inaĵoj
kaj bona sakeo.
- 390 Tiam mi sendis informanton
por inviti diojn
proksimajn
kaj malproksimajn
por festeno grandioza.
- 395 Ĉe la festeno mi parolis

396 al la dioj
 mian sperton
 kiam mi vizitis
 homan vilagon,
 400 kia estis la situacio,
 kio okazis tie.
 Pro mia rakonto ĝis detalo
 la dioj laŭdis min
 pro mia faro.
 405 Kiam la dioj forlasis,
 mi al ili donacis
 la belajn du aŭ tri
 inaŭojn por ĉiu.
 Nun mi vidas,
 410 ke en la homa vilaĝo
 ĉio estas en paco,
 homoj amikas reciproke
 sub la ĉefo, la mastro
 de l' familio tiam povra.
 415 Ankaŭ la knabeto tiama
 nun estas jam plenaĝa,
 havante edzinon
 kaj idon,
 servas bone kiel filo,
 420 al la patro
 kaj patrino.
 Kiam ajn sakeon
 faras ili,
 komence de la festeno
 425 ili kultas min ĉiam
 donante inaŭojn
 kaj sakeon.
 Do, ankaŭ mi
 sidas ĉiam
 430 post la homoj,
 la vilaĝanoj,
 kaj gardas
 homan landon.
 — tiel Dio Strigo rakontis.

(fine)

Tradukis A. Hoŝida

RAKONTO DE OKIKIRMUJIDO "ĈI SABLO RUĜAS, RUĜAS."
(Pon Okikirmuj jajejukur "Tanota hure hure")

Jukaro tradiciita en Horobecu
Prove tradukis A. HOŜIDA

- 1 Tanota hure hure
lun tagon
kiam mi promenis laŭ la rivero,
diablidon mi vidis,
aspektantan ĉiam bela.
- 5 Lia vizago estis bela.
Nigran veston surmetinte,
tenante mane pafarketon,
kaj sagetojn el jugland',
ridetante al mi
- 10 li diris.
"Venu kunludi, Okikirmujido!
Nu, neniigos mi fiŝojn."
Dirante tion,
per pafarketo el jugland'
kaj sageto el jugland'
- 15 pafis li la elfluejon,
de kie ekfluis akvo juglanda,
akvo malpura.
De la akvo el jugland'
20 venenite la salmoj,
retroŝvebis al direkto,
de kie ili venis nun.
Tion ĝoje rigardante
la diablido ridadis.
- 25 Ĉar mi sentis koleron
rigardante l'aferon,
la elfluejon mi pafis
per argenta pafarko kaj sago,
kiujn tiam mi havis.
- 30 Tiam de tie elfluis
akvo argenta, akvo pura.
Revigligis la salmoj,
retroŝvebintaj kun ploro,
ĝoje kontraŭfluen jam,

35 venas ili kun ĝoja krio,
 laŭta ridado, babilado,
 kaj plaŭdado, en serie.
 Montris la diablido tiam,
 koleron flame sur vizaĝ'.

40 "Se vi aŭdacas
 fari tion,
 neniigos mi la cervojn!"
 li kriis kaj pafis
 en la vastan ĉielon

45 per pafarko juglanda
 kaj sageto juglanda.
 Tiam de la arbaro
 venis vento juglanda,
 vent' kirla, de l' montaro.

50 De l' arbar' sur monto
 cervoj kune en grupo
 kaj cervinoj en la alia,
 forblovigis de la vento,
 supren al ĉielo, en vicoj.

55 Ridante rigardis la diablido.
 En mi kreskis kolerego,
 pafis mi per argenta
 sageto kaj pafarketo,
 cele al cervaj grupoj.

60 De la ĉiel' ekblovis
 vent' argenta,
 vento pura.
 Al arbar' monta ĝi ŝovis
 cervojn kune en grupo,

65 kaj cervinojn aligrupe.
 Tiam la diablido montris
 sian ĉiaman koleregon,
 kvazaŭ survange flamon.

70 "Se vi arogas tiel,
 intence min provokas,
 do ni havu lukton por duel'!"

Dirante, veston li demetis.
 Nur en ĉemizo maldika,
 kaptis mi lin per brakoj.

75 Ankaŭ li, tre fortika,

76 kaptis min per brakoj.
 De tiam ni luktadis
 aŭ sur aŭ sub de la alia,
 reciproke baraktadis.
 80 kaj mi miris, kiom forta
 estas la diablido.
 Tamen ĉe la fin'
 mi levis lin
 ĝis sur miaj ŝultroj
 85 per mia tuta forto
 de l' kokso kaj brakoj,
 kaj alĵetis lin
 sur la rokojn
 de fora monto.
 90 Iom longe la sono daŭris,
 tamen baldaŭ silentigis.
 Kaj post tio mi aŭdis,
 irante hejmen laŭflue,
 salmojn ridi kaj ludi
 95 en la rivero, kaj vidis
 ilin plaŭde suprennaĝi.
 Sur l' arbaro de la monto
 eĥis ridoj kaj krioj
 de la cervoj, cervinoj,
 100 ĉie, plene ĉirkaŭ mi.
 Tie kaj ĉi tie ili manĝis
 senĝene la herbojn, mi vidis.
 Kun koro pro l' vido trankvila
 revenis mi al hejmo mia.
 ---tiel rakontis Okikirmujido pri sia ĉaro.

JAPANA-ESPERANTA VORTARO POR. MI (2)

- ak jôso 亜共晶の(鉱) Hamada K. (Hamonaka)
 hipoeŭtekta.
 akka 悪化(医) depravacio
 akkeŝiŝo アツケシソ(植)
 salikornio
 akkô 悪口 insulto,
 ~をいひふらす klaci
 ~雑言 blasfemo
 ako 亜銅 subklaso
 アコディオ(楽) akordiono^s
 akogare あこがれ sopir(ad)o
 あこがれる sopiri
 アコニチン(化) akonitino
 アコニツト(薬) akonito^s
 アコラド(騎士叙任の抱よう・平手
 うち(ヨ史) akolado
 アコリオン(植病) favofungo
 aku あく lesivo
 (化) potaso,
 ~で洗う lesivi
 アクアチント(術)(美) akuvatinto^s
 ~版画を作る ~i
 akubi あくび oscedo
 ~をする pf. ~i
 アクチブ(人)(政) aktivulo
 アクチン(化) aktino
 アクチニウム(化) aktiniumo
 アクチノミスケ(植) aktinomiceto
 akueki 悪疫(医) epidemio
 akuekiŝicu 悪疫質(病) kakeksio
 ~o ~a
 akuhicu 悪筆(語) kakografio
 skribaĉo
 akuhjô 悪評の malbonfama
 akki 悪気 haladzo,
 ~を放つ ~i
 akui 悪意 malice, ~の marica
 malbona, ~の仕うち malicaĵ
 ~のない senmalica
 ~のある f. venena
 akuma 悪魔 diablo, ~に食われ
 Diablo vin prenu/
 ~的な demona
 ~的な人 demonulo
 akumu (男)悪夢 sukubsonĝo
 (女)悪夢 inkubsonĝo
 akurjo 悪霊 demono,
 (エフリット)(回) efrito,
 ~の demona, 信 demonis
 ~つき(人) demonhavanto,
 ~研究 demonologio
 akuse 悪性の(病) maligna
 akutoku 悪徳 malvirta
 アクリル酸(化) akrilata acido
 ~塩(化) akrilato^{*}
 アクロコルドウス(動) akrokordo
 アクロポリス(都城)(洋) akropolo
 アクロレイン(化) akroleino
 アクロテリオン(建) akrotero
 akuseku あくせく働く
 f. servuto
 アクセント(文) akcento

～母音(語) toniko ⁵	アマニチン(化) amanitino
アクセル(自) akcelilo	アマニ油(化) linoleo
アクセサリー(服) akcesora	amaoke 雨おけ pluvujo
akuŝu 握手する manpremi	amarihimo 余りにも・・・すぎる
～を求める peti manon	(副) tro
akutai あくたいをつく f.blasfemi	アマリリス(植) amarilido ⁵
アーク燈 arklampo	アマルガム(化) amalgamo
アークトールス星(天) Arkturo	～を作る ～i
ama アマ(植) lino,	ame あめ(菓) ameo ⁶
亜麻布(織) bisino	アマゾン(キ神) Amazono ⁵
amacubame あまつばめ(鳥) apuso	～川 ～o
cipselo ⁵ (CYSELUS), km.	ame 雨 pluvo, (悪口)f.torento
Apuso pacificus,	～が降っている pluvas
salangano(三宅;海つばめ)	～のもらない pluveltena
km. あなつばめ COLLOCALIA,	pluvimuna
～の菓(料) salangannesto	アメーバ(動) amebo,
アマチュア amatoro ⁵	～状の(生) ameboida
amadokoro アマドコロ(植) p...	～症(病) amebozo
poligonato	アメン(キ) amen ⁵ !
amagaeru あまがえる(動) hilo	アメリカ Ameriko
amagappa 雨がつば pluvmantejo	アメリカボウフウ(植) pastinako
amai あまい malsevera,	アメリカだちよう(鳥) reao
甘い doĉa,	アメリカはげわし(鳥) katarto
甘いささやき flirtaĵo	アメリカやぎゆう(鳥) bizono ⁵
甘い汁(茎・葉・虫などからでる)	アメリカ人 usonano
～ mielroso	アメリカもぐら(動) kondiluro
amajakasu 甘やかす dorloti	アメリカむくどり(鳥) bobolinko
amanjita 甘んじた kontenta	アメリカわに(動)アリゲーター aligaturo
amamo アマモ(植) xerostero ⁵	aligaturo
amaneku あまねく旅する	アメリカシウム(元素)(化) americio; Am
travojagi	ami あみ ŝnuraro, 網 p.f.maŝaro

網(えび・とりなどの) ~~amoko~~,
 網 reto,
 網で捕える retkapti
 網にかかる p.f. enretiĝi
 アミアンチウム(植) amiantio^s
 アミダイム(仏) (無量光仏) Amitabo*
 ~ ~~無量寿~~ 仏) Amitajo*
 アミド(化) ~~amido~~
 amigasadake ~~アミガサダケ~~(植)
 morkelo^s
 amijakuŝi あみじやくし ~~アミ~~
 senŝaŭmigilo
 アミクトス(ミサ衣) (カ) amikto
 (alboの下に着る)
 アミン(化) amino
 アミノ酸 amino — acido
 アミラーゼ(化) amelazo
 アミス(植) amirido
 アミル(化) amilo
 amitôŝi 網闘士 (rêtiarius)
 (カ) retarmito
 アモック(殺人)(マラヤ) amoko
 アモム(植) amomo
 アモン(大神)(エ神) Amono
 アーモンド(果) migdalo
 アモル(ロ神) Amoro
 amu 編む p.f. plekti
 編上げぐつ altasuo
 編み合わす kuntriki
 編針 trikilo,
 編み込む tra plekti

編目 maso, plektajo
 編目をほぐす dismasiĝi
~~amoko~~ 罎(巢を) あむ âpini
 amoko 罎目(生) subordo,
 (主要科につけて) 罎目を示
 (植尾) ~ ine ~
 malvineoj アオイ科
 アムステルダム市 Amsterdam
 アムール川 Amuro
 an あん(菓) anno*
 anciso 安置所 ripozejo
~~amoko~~ 安価な malkara
 annan 安南(地) Anamo
 安南人 anamano
 anraku 安楽 komforta
 ansei 安静を乱す p.f. pertur
 安静療法(医) ripozkurac.
 ansokubi 安息日(ハ) sabato
 anŝin 安心 trankvil(ec)o
 ~な ~a,
 ~した memcertema,
 (ホツと) ~する f. malsul
 antei 安定 stabileco
 ~の(理・化), ~した stabi
 ~させる stabiljgi
 ~計 stabilometro
 ~力(心などの) f. balast
 ~力を失わせる f. senbal
 ~装置(理機・空) stabil
 ~劑(化) stabiligilo
 anzangan 安山岩(鉱) andes

anzen 安全 sekureco	穴をあける trui
～な sekura	穴があく truiĝi
～にする sekurigi	穴蔵 truo, 穴倉 hipogeo
～に守る f. asekurigi	穴送り(札) ermitoludo
～弁 sekuriga-valvo	穴うめ kompensajo
～ボタン sekurbutono	穴うめする kompensi
～地帯 trafikinsulo	anadori 侮り moki
～ピン endangera pinglo	あなどる malestimi
～装置(軍) gardilo	アナフィラキシー(病) anafilaksio ⁵
しや断器(電) gardilo	アナギリス(植) anagiro
annai 案内 konduk(ad)o,	anago あなご(魚) anago*, kongro
gvid(ad)o, ～(機) gvidilo	anaguma(動) melo
～する gvidi	アナグラム(文学) anagramo
案内人 gvidanto	～(遊) anagramoj
案内者 kondukanto	アナグリフ (美・写) anaglifo
案内所 informejo	anajako あなじやく(動) gebio
案内書 gvidlibro	アナカルジウム(果) anakardio
an 暗(あん)(光) eklipso	(植) anakardiarbo
an 暗に含める implici ⁵	アナキスト anarkisto
～にさす aludi	アナキズム anarkismo
anbako 暗箱 ŝargujo	アナコンダ (動) anakondo
angô 暗号文 kriptogramo	アナクレオン体の(詩) anakreona
暗号通信法 kriptografi	～詩 ～ajo, anakreonteo
anĝi 暗示 sugestio	アナクロニズム(記時錯誤)(史)
暗示にかける ～i	anakronismo
暗示的看過法(修) pretericio	アナミタル(植) anamirto
ankoku 暗黒の p.f. malluma	anasangmodoki あなさんごもどき
anmoku 暗目のうちに implicita	(動) mileporo
anrjokuŝoku 暗緑色の botelverda	anata あなた(代) vi,
anŝo 暗礁 p.f. subrifio	(神・親近者) ci, ～て呼ぶ cidiri
ana 穴 p.f. turo	～を vin, あなたたち vin

アンモン貝(古生) amonito ^s	アントレ(料) entreo
アンモニア(ガス・水)(化) amoniako ^s	アントルメ(料) antaŭdecerto
アンモニウム(化) amonio, NH ₄	アントシアニン(化) antocianino
アノビウム(虫) anobio ^s (しばんむし)	アントワープ市 Antverpeno
anojo あの世 transmondo	anzanĵu アンザンジュ(植)
f. Hadeso, ~で transmorte	anastatiko
アノラック(ジャケット)(エスキモ)	anzu あんず(果) anzuo ^s , abrikoto
anorako	anzutake(植) kantarelo ^s
アンペア(電) ampero ^s	aoi 青い blua,
~時~horo, ~数 amperaro	青い色をしている blui
アンペラ(植) lepironio ^s	青い色の物 bluaĵo
アンペロプラムス(植) ampeloprazo	青葉 verdaĵo, 青絵具 bluaĵo
アンピール様式(建・美・服) empiro ^s	青がかつた blueta,
anpo あん法(医) kataplasmo	青黒い nigrablua
アンプール(薬) ampolo ^s	青写真 blukopio,
アンサンブル(芸・服・建) ensemble ^s	~機 cianotipio
アンソロジー(文学) antologio	青白い(顔色などが) blanka
アンシャンレジュール(フ史)	青白い livida, paleblua
Antikva Reĝimo	青味 verdecio, 青物 verdaĵo
ansusiki 接手式(切) ordinado	青二才 flavbekulo
~をする(切) konfirmacio ^s	アオイドス(詩人)(詩) aedo
アンタレス星(火星の敵の意)(天)	aogicune あおぎつね(動) izatiso
Antareso	aogiri アオギリ(植) sterkulio
アンテナ(海・通) anteno	aoiaka アオイ亜科 malvineoj
アンテアード(国際語) Antido	aoĵi あおじ(種)(鳥) hortulano
アンテistroフィー(芝劇)	aokazura アオカズラ(植) sabio ^s
antistrofo, kontraŭstro	aoki アオキ(植) aukubo
アントクサントム(植) antoksanito	aomidoro アオミドロ(植) spirogira
アントン(男子名) Antono	konfervo ^s
アントラキノン(化) antrakino	aonori アオノリ(植) enteromorfo ^s
アントラセン(化) antraceno	アオリスト(過去)(ギ文) aoristo

あなたに vin, あなたの via	アンフィテアトルム(演技・闘技場) (ロ)
あなたとしては viaflanke	amfiteatro
アナテマ(宗) anatemō	アンギーナ(病) angino
アナット(化) rokuo(biksoからとる	アンゴラ(市)(史) Anguro, ~の~a
帯黄赤色染料; バター・チーズな	~産の ~a
どの色付け用)	アンゴストウラ(皮, 解熱剤)(植・薬)
アナウンサー anoncisto	angosturo
アナウンス anonco	アングレクム(植) angreko
アンバーgris(化) ambro(りゆうぜん香)	アングレース(ダンス・書体) (フ)
アンボン(説教台)(キ史) ambono	anglezo
アンブrosiアー(神の食物)(ギ・ロ神)	アングリカニズム(神) anglikanismo
ambrozio ^s	アングロサクソン人 anglosakso
アンチモン(元素)(化) antimono.Sb	アングル人 englo
アンチピリン(化) antipirino ^s	アニリド(化) anilido
アンチリス(植) antilido	アニス(果) anizo
アンチテーゼ(哲・薬) antitezo	(植) anizarbo
kontraŭtezo	アニゼット(酒) anizbrando
アンチヨービ(魚) anĉovo.	anizlikvoro
~ソース(料) ~ saŭco	アンジェラスカ(カ) angeluso
アンダンテ(調曲)(楽) andanto ^s	アンカー(海) ankro
~て andante	~アーム(海) ŝtoko
アンデルセンの童話 Fabeloj de	~ブイ ankro buo
Andersen(アナスン, アネルセン)	アンカラ市 Ankaro (Anguro)
アンデス山脈 Andoj	アンケート enketo
アンドラ(国) Andoro	~ ~をとる ~i
アンドロメダー(ギ神) Andromedo	anko あんこう(魚) lofio
~座(天) ~	アンコール(楽) bis! biso
アネモネ(種)(植) anemono	~と叫ぶ biso
アネロイド気圧計(気) aneroido	アンクル(機) ankro
アネルギー(病) anergio	~付時計 ~ohorloĝo
アンフオラ(水がめ)(ギ) amforo	アンミ(植) amio

aoru あおる (火などを)	~仕方で <i>ĉiel, ĉiele,</i> <i>ĉiamaniere</i>
bloviĉskiti...	
aosa あおさ(植) ulvo	arahabe 荒壁 stukajo
aosagi あおさぎ(鳥) arĉeo	~を塗る stuki, ~土 stuk
aoukigusa アオウキグサ(植) lemno	ア・ラ・カルト(料) lau la karto
アパナージュ(扶持)(フ史) apanago	アラキドン酸 arakidonata acid
~を与える ~ i, ~領主 ~ ulo	~塩(化) arakidonato*
アペニン山脈 Apeninoj	アラキシン酸 arakidata acido
アペリチフ(食前酒)(料) aperitivo ^s	~塩(化) arakidato
アピウム(植) apio	アラク(酒) arako ^s
アピール f. apelacio	aramaŝi あらまし kompendie
アポクロマート(レンズ)(光)	aramejasuri 荒目やすり rasp
apokromato*	アラム人(史) arameo
アポローン(ギ神) Apolono	アランギウム(植) alangio*
アポローン賛歌(神) peano ^s	アランソン(レース)(織) alensonc
アポストロフィ(文) apostrofo	km. Alençon(最も美しいレ-
~をつける(文) ~ i	arare あられ(気) grajlo ^s , ha
アパッチ人 apaĉo	~が降っている Grajlas, Ha
appaku 圧迫する premi	~の粒 hajlero
圧迫感 premsento	arasagaŝi あらさがしのすきな
appare あつばれな merita	kritikema
アブライト(鉱) aplito*	arasĉetô アラセイトウ(植) mati
アラ(神、上帝)(回) Alaho	levkoj
アラベスク(建・美) arabesko	arasou 争う(所有権などを)
アラビア Arabio, ~ ujo	pridisputi,
アラビノース(化) arabinozo	~余地のない nerefutebli
アラブ人 arabo	arasu(場を)荒す pristeli
arage あら毛(生) vilò	araŝi あらし blovado
araiguma あらいぐま(動) prociono	f. ŝturmo, f. sturmo,
prociono	p. f. uragano
arajuru あらゆる ~理由から ĉial	~が吹く stormi

arataka あらたかな(宗) efika	abunda, ~である abundi
aratamete あらためて denove,	アーリアン主義(政) arjanismo
refoje	アリアリテ(植) aliaro
arato 荒砥 grejso ^s	アリバイ(法) alibio ^s
arau 洗う lavi, (身体・顔を)	アリダード(器)(理) alidado
(身体、顔を) sinlavi	アリエンタ(楽) aricto
洗い落とす ellavi, forlavi	arigatô ありがとう! Dankon!
araũareru 現われる apera, vidigi	ありがたい dankinda
araũasu 現わす aperigi	arihureta ありふれた danala
are あれかこれか tiu aũ alia	ordinara, ~事柄、~語句
arê 亜鈴(運) haltero ^s ,	banalajo
亜鈴体操、重量挙げをする	arijigoku ありじごくの成虫
halteri	(うすばかげろう)(虫)
アレグロ(曲)(楽) alegro ^s	formikurso = mirmeleono ^s
アレグロツト(楽) alegreto	arikui ありくい(動) tamanduo
アーレンカ(道化俳優)(劇) arlekeno	arimaki ありまき(虫) afido ^s
アレキサンダー(男子名) Aleksandro	アーリマン(ペ神) Arimano
アレキサンドル格の(詩) aleksandra	arinotôgusa アリノトウグサ(植)
arekuruu 荒れ狂う sovaĝi	halorago*
f. sturmi, furioza	アリオーソ(調)(楽) arioso*
アレクトル(種)(鳥) alektoro	アリル(化) alio $\text{CH}_2 = \text{CHCH}_2^-$
areno 荒れ野 sovaĝejo	アリール(化) arilo (芳香族炭化水素
アレオパゴス(法廷)(神) Areopago ^s	の核から水素1原子を除いた残基
アレルギー(病) alergio	の総称、ベンゼン $\text{C}_6\text{H}_6 \rightarrow$ フェニル
areta 荒れたままの sovaĝa	C_6H_5^-
ari あり(虫) formiko,	arisô ありそいな probabla
へいたいあり(虫)	arisui ありすい(鳥) jingo
soldatformiko	アリストテレス(哲人) Aristotelo
ありの樂 formikejo	~学派の(哲) peripatetika
アリア(調)(楽) ario	~派(人)(哲) aristotelano
ariamaru ありあまるほどの	~哲学(哲) Aristotel(an)ismo

LEONTODO n-ro 47

1972年6月17日発行

発行所 北海道エスペラント連盟

060 札幌市南2-西4 中央タイピスト学院内

TEL 251-4750

振替口座 (小樽) 77075

編集 沢谷 雄一